# 図書館だより

## 市立図書館

### 子ども司書養成講座開催中

今年初めて香美市教育委員会の主催で、**子ども司書養成講座**を実施しており、現在小・中学生19人が受講中です。

この講座は、受講生が将来において、地域の図書館司書や読書ボランティアとして活躍できるように、また読書活動の推進役としての基礎知識を学習するために開催しています。

8月に行われた基礎講座では、本のすばらしさや読書の大切さ、読み聞かせのための本の選び方や読み方、本の修理の方法などを学びました。実際に、受講生一人一人が読み聞かせを行い、本の持ち方、間の取り方などを講師から指導していただきました。

9月からは、土日や祝日を利用して公立図書館や学校図書館で、本の貸し出し・返却・装丁・登録の仕方などを実際に行います。

12月からは、県立図書館で、図書館の役割や本の並べ方を学び、養成プログラムは修了します。

その後、レポートを提出し、子ども司書として認定証を授与されます。認定された子ども司書たちには、読書の大切さやすばらしさを広めていってほしいと思います。

### 新着本の紹介（本館）

〔大人向け〕

▽猫とあほんだら（町田康）▽龍馬奔る　少年篇（山本一力）▽日本中枢の崩壊（古賀茂明）▽「成功」と「失敗」の法則（稲盛和夫）▽天上紅蓮（渡辺淳一）

〔子ども向け〕

▽おこってるんだからね（川之上英子）▽だあれ？（AKI）▽サインですから（ふくだすぐる）▽トトシュとマリーとたんすのおうち（カタリーナ・ヴァルクス）

### おすすめの1冊

**「つみきのいえ」**
（絵：加藤久仁生）
（文：平田　研也）

海面がどんどん上がってくる町に住むおじいさん。家が沈むたびに上へ上へと建て増しを続け、つみきのようになりました。ひょんな事から家族と過ごした楽しかったことや、悲しかったことを思いだし、この海に住み続けようと思います。

この本の原作のアニメが、2009年の米国アカデミー賞（短編アニメーション部門）を受賞し、とても有名になった本です。世界各国の映画祭で、たくさんの賞に輝いたアニメを絵本にしています。とても心あたたまる絵本なので、ぜひ読んでください。　ユナ・14歳（物部町）

# 吉井勇記念館だより

## 与謝野寛・晶子&平野萬里（ばんり）～師弟の絆～特別展

浪漫主義に基づき、短歌の革新に貢献した機関紙『明星』には、後に与謝野夫妻と長く付き合った平野萬里や、祇園歌人と謳われた吉井勇など多くの若き歌人たちが集いました。

本展では、勇と交流のあった与謝野夫妻と、2人を終生の師と仰いだ平野萬里の直筆作品、書籍などをご紹介するとともに、彼らの**師弟の絆**にスポットをあてた展示を行います。

多くの方のご来館をお待ちしています。

**【期間】**
10月5日(水)～12月5日(月)

**【場所】**吉井勇記念館

**【講演会】**11月13日(日)

**【講師】**平野千里氏（平野萬里御子息・元高知大学名誉教授）

**【人物紹介】**

**●与謝野寛**

明治32年、新詩社を設立、『明星』を刊行。著書に歌集『東西南北』『鉄幹子』、晶子との共著『霧島の歌』などがある。

**●与謝野晶子**

明治33年、『明星』の同人となる。明治34年、最初の歌集『みだれ髪』を出版。代表的な浪漫派歌人の一人。

**●平野萬里**

明治34年に新詩社へ入社、16歳で寛に弟子入りする。明治40年歌集『わかき日』を刊行。茅野粛々、北原白秋、吉井勇とともに**新詩社四天王**と呼ばれ、与謝野夫妻が没するまで、夫妻に協力し、親密な関係があった。与謝野夫妻との関係について、萬里の遺作『晶子鑑賞』の序文で佐藤春夫が「師弟の道の衰えた近代の文学界では異数※と見るべき美しい関係であった」と讃えている。

※異数…他に例のないこと

**【問い合わせ先】**
吉井勇記念館
☎58・2220



# 香美市文芸　風の流れ

【短歌】

楠瀬　兵五郎　選

同室の友の個性に合わせつつ交わりゆかん言葉えらびて　門田　喜美
孫ほどのカップル誘う竜王滝気遣いくるる行きも帰りも　高野　和一
半ば来た七十の路これよりは振り返りつつ道草もして　小松　敏子
その秋に瓦礫（がれき）に咲きし花ありて立ち上がりたる広島の人　森本　幸美
白内障の手術終えたり我は今心も瞳も晴々として　公文多賀子
華やかに卒寿（そつじゅ）の日々を謳（うた）ふらむ街のマンションに移るわが友　韮生　灯
七夕の笹に短冊かざりつけ幼の頃の日をなつかしむ　門脇　千代
花の日が近づく吾にあれこれと息子娘も花抱いてくる　西尾　玉喜
会長も会計もまた若々し句会の披講今始まりぬ　小松　隆之
自立して生きねばならぬ一人居は一番元気と友に言はれぬ　門田　明子
田植機のエンジン音の響きゐる植田たちまち早苗に埋まる　公文　正子
結ひ上げし髪白無垢（しろむく）姿の花嫁を迎へ入れたりこころ安らぐ　林田　幸子
バスの窓霧の晴間に山枇杷（びわ）の黄色く浮き出る谷間の林道　出原　久子
ことしまた蛍の光を見る夜なり闇の中より子や孫の声　高橋　章
壊滅という表現の大津波胸に刺さりし「3・11」　大石　綏子
朝まだき開けたる窓よりきこえくる蛙の合唱輪唱のごと　小松　禮子
円（まどか）には足らざる月の昇りゐて今日の私の心を思ふ　古川　安子
他愛なき事を言ひつつ友と吾二キロの山路ゆつくり登る　松中　賀代
「御一行様」太き案内（あない）に迎えられ今宵の宴に心ははずむ　武内　弘子
目覚むれば朝焼け雲の広がりて梅雨季の奇跡被災地に夢を　谷内　務
たおやかに競い咲きたるあじさいの梅雨のエキスを受けてかがよう　公文　千恵
子を守り吾（わ）を守り給え近江（おうみ）なる祖の地東寺に八月の風　吉本　悦子
打ち水のわが庭照らし冴えざえと上りはじめし盆の満月　坂上のぶ子
幕が開く声かけ飛んで拍手来る波に乗りたり三分勝負　法光院俊子
今月も二十日過ぎたり締切りの迫りくるしむハガキ歌三首　山崎　緑
この空のどこかに祖母はたゆたひて降り来ますらし時折そばに　山崎　貴子
独りでは暮せぬ時の迫り来て地デジとなり今宵聞くラブソング　岡田美代子
勤めつつ子は朝夕を励みきぬ花を咲かせて八枚の穂田　大岸由起子
天気よければ登るとも峰は止めにせむ台風きざし曇る山空　小松もとみ
弱弱しき花火と名の付く紫陽花（あじさい）は梅雨の重さを持て余しおり　佐々木真里
子供らにエコの家計簿奨めんと授業をすます入院前に　宮地　亀好
遊覧船にまつわるカモメまるまると艶（つや）よく優雅さのエビセン　古谷　由美
芋天とコンニャクおでんに味噌汁付外人さんも食べている道の駅　伊藤　清子
吾ら四人天狗の森を越えゆけば集合時刻気になりはじむ　都築　初代
時間雨量の通行禁止を知らず来て濁流の谷にまだ止まぬ雨　林　敏子
息災で居てくださいねと心とこころつながってます同級生等　大石紗智子
藻草より数多（あまた）出入りし泳ぎいるメダカの学校水瓶の中　尾立　かよ
病院の暮らしに慣れぬ朝な夕な帰りたいにも両足ギブス　楮佐古きよ
梅の量砂糖の量もまだたしかジャムを作るは幾年なるや　竹村　稔美
腰痛め再度の通院何もかも娘に聞けどぼけてはならず　横田直加子
同級の友のひとりは御曹司代々つづく造り酒屋の　小野川惠仁
夜の窓に白樺（しらかば）しろく並び立ち酔ひたる友もわれも饒舌（じょうぜつ）　佐竹　玲子
飢餓（きが）の日をはるかに思ひ老の身の若き等乱費の未来気づかふ　鍵山　みつ
牛蒡根（ごぼうね）にわが憎む草名を知れば一華風露草ほのか赤き花　楠瀬兵五郎

**投稿方法は自由です。**

**なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。**

**【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係**
**〒782－8501（住所記載不要）FAX 53－5958**

**※俳句・短歌の応募は、総務課内広報委員会事務局まで。**